

## 令和4年度事業報告及び附属明細書

(令和4年1月1日から令和4年12月31日まで)

### 1. 事業概況

令和4年は、3年目となる新型コロナウイルス感染症との戦いに加えて、ロシアのウクライナ侵攻が影を落とす厳しいものとなりました。高まるインフレ懸念から各国中銀が利上げを急ぐ中、我が国は緩和策を継続したことから円安が進み、物価上昇による社会生活の痛みが増しています。

こうした環境下ですが、当会は、創設者・原田二郎が掲げた理念を基に、安定的な業務運営に努めつつ、社会環境の激しい変化にも機動的に対応し社会貢献活動の継続に努めて参ります。

コロナ回復過程での経済活動活発化による需給の歪みに、ウクライナ侵攻による食料・原材料価格の上昇が加わったことによるインフレ率の急上昇を受けて、米國中銀は強力な引き締め策を採用し、さらに英国・欧州の政治・経済の混乱も加わり、金融市場は株式・債券の同時安状態となりました。ゼロコロナ政策を続けた中国では、政権批判も起こる中、一気にコロナ政策を転換したものの混乱し、経済の先行きは不安定です。政治・経済両面での分断がグローバリゼーションに翳りをもたらし、世界経済のリセッション入りは避けがたいとの見方が強まっています。

わが国においては、海外との金融政策の違いから金利差が拡大し、一気に円安が進行し物価の上昇に拍車をかけました。年末には日銀が緩和策の出口を探る動きもあり円安は一服となり、また、インバウンドの復活など一部に明るさもあるもの

の、経済は力強さを欠く状態です。こうした中、賃上げの動きはあるものの実質賃金の減少は免れず社会生活は厳しさを増しています。

社会福祉情勢については、格差拡大による子どもの貧困や貧困の連鎖、相次ぐ児童虐待の発生といった社会的な課題が山積していますが、コロナがこうした傾向を増幅しています。

助成ニーズについては、昨年同様、コロナの影響による高まりがある一方、助成事業の取りやめ・中止を余儀なくされる先もあり、まだら模様となりました。

なお、当会が資金分配団体の、休眠預金事業「希望を未来へーこどもホスピスプロジェクト」は、2024年3月までの事業期間の約半分が経過し、実行団体（5団体）はコロナの状況下にあっても着実に歩みを進めております。

当財団の金融資産の運用益は、超低金利環境下で債券の利回り低下にようやく歯止めがかかるとともに、為替の円安方向への推移による外貨収入の増加や株式配当の回復傾向から前年を上回ることができました。賃貸住宅の事業収益も引き続き安定して推移しました。さらに、休眠預金事業より44百万円の事業資金を受け取ったことが加わり、経常収益は、前年度比21百万円増加して158,210千円となりました。

助成金・寄付金支出は、新型コロナによる事業縮小・イベント中止があったものの直接要請の新規先を含めて積極的に取り組み前年を上回ることができ、加えて休眠預金事業で33百万円の助成を実施した結果、全体では56,214千円と高水準を記録しました。記念助成（消防への30百万円）のあった前年度との比較では14百万円の減少となりました。

経費については、前年度に行った建物修繕（8百万円）の負担がなくなったことに加え、インフレ下ではありましたが経費全体の圧縮に努めた結果、前年比約8百万円減少の58,233千円となりました。

経常費用全体としては前期比22百万円減少して114,448千円でした。

以上の結果、経常収支は前年度に比べ43百万円と大幅に増加し、43,761千円の利益の計上となりました。

金融資産の評価損益等は、期中大幅に円安が進行し150円台をつけた後、円高方向に戻したものの期末レートも1ドル132円と前年度末の115円に比較し円安となったことを受け61,369千円の評価益を計上しました。

以上のような経常収支及び金融資産の評価損益等を反映した、期末の正味財産残高合計は、2,753,577千円で、前年度比96,456千円の増加となりました。

令和4年度の収益、財産状況は以上のようなものとなりましたが、今後については、世界的に高まるインフレおよびリセッションへの懸念および、ウクライナ情

勢や米中対立の構図など内外のリスク要因にも留意して、引き続き注意深く慎重な金融資産の運用に努めて参ります。

なお、外貨建資産の保有による公益目的事業の収支変動リスク（為替リスク）に備えるために、リスク対策準備資金を公益法人認定法第18条第1項に定める特定費用準備資金として積み立てることと致しました。

## 2. 事業別内訳

### (1) 公益事業

今年度は、昨年度に引き続き休眠預金事業の助成により助成、寄付は高水準に達しました。助成・寄付の対象分野については、引続き若者支援に重点を置き、自立支援や休眠預金事業のこどもホスピス等の福祉活動への支援に注力しました。

助成金・寄付金の交付額は、社会事業分野に56件、50,838千円、これには、休眠預金事業の助成5件、32,745千円が含まれています。学芸技術教育分野に5件、1,845千円、寄付として3件、3,530千円を実施した結果、助成金・寄付金合計では、64件、56,214千円で、前年度より14,123千円減少しました。助成金等の明細は、後記Ⅱの通りです。

### (2) 収益事業

本会では、助成財源創出のために賃貸マンションを保有しております。今年度はほぼ満室が続き入替による一時的空室も少なく賃貸収入は前年とほぼ同額の18,780千円となりました。

### (3) その他

本会が松阪市に寄贈した原田二郎旧宅は、市から運営委託を受けた松阪歴史文化舎による積極的な運営のもと松阪市の文化遺産として根付いてきており、本会も引続き記念展示品の提供などを通じて支援しております。原田二郎の生誕地である松阪の文化活動には、今後も地道な支援を行って参ります。

なお、原田二郎旧宅記念館の維持管理費を含む文化財保護について、10年間、毎年100万円の寄付が令和4年をもって完了となりましたが、新たに令和5年より毎年50万円を10年間寄付することで、松阪市と合意致しております。

以上